

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>プロジェクト目標：ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する</p> <p>活動は概ね順調に実施され、3年計画の1年次事業のために設定された以下の3つの目標はすべて達成された。今後も活動が順調に実施されれば、プロジェクト全体の目標も達成できると考える。</p> <p>【1年次目標】</p> <p>①対象全ヘルスポストの資機材配備状況がネパール政府基準を満たす。 ⇒達成。 対象全4か所のヘルスポストに、これまで配備されていなかった、もしくは故障、老朽化等が原因で不備があった資機材計31種類114品目が供与されたことにより、対象全ヘルスポストがネパール政府基準を満たすことができた。</p> <p>②対象ヘルスポストスタッフの「家族計画とカウンセリング」に関する知識が向上する。 ⇒達成。 対象のヘルスポストで主に家族計画とカウンセリングのサービスを担当するスタッフ4人が、「家族計画とカウンセリング（COFP & Counseling：Comprehensive Family Planning and Counseling）研修」を受講し、全員が研修終了時テストに合格した。現時点で同研修の修了者はこの4人だけであり、2年次以降も引き続き当該事業が支援を継続し、他スタッフへの知識・技術の波及を図っていく。</p> <p>③研修を受講したFCHV（女性地域保健ボランティア）の「妊産婦体調管理」に関する知識が向上する。 ⇒達成。 主に妊産婦の体調の変化や管理等、母子保健に係る知識を習得する「FCHV能力強化研修」を受講したFCHVの95%（74/78人）が研修終了時テストに合格した。</p>
(2) 事業内容	<p>3年事業の1年目にあたる今年次に実施した事業内容について、以下の通り報告する。</p> <p>0. 事業管理に係る活動</p> <p>0-1. 各レベル行政機関との調整</p> <p>ガダワ地区行政の地区長をはじめ、保健医療担当官、社会開発担当官、地区内全8区の代表者らから構成される地区レベル諮問委員会（RMPAC：Rural Municipality Level Project Advisory Committee）が設置され、同委員会調整会議が計5回開催された。本事業の活動計画や進捗状況が共有されるとともに、行政方針の確認や、相乗効果の発現に向けた連携調整が行われた。</p> <p>また、2019年12月に郡レベル諮問委員会（DPAC：District Level Project Advisory Committee）、2020年1月には省庁レベル諮問委員会（CPAC：Central Level Project Advisory Committee）の調整会議が開催され、それぞれ郡開発局や保健局、女性子ども高齢者省¹や保健人口省等の担当官出席のもと、活動内容と実施方法について活発な意見交換が行われた。さらに、2020年2月には外部監査人により社会監査²が実施され、裨益者64人への聞き取り及び公聴会開催を通じた事業評価が行われた。</p> <p>0-2. ベースライン・エンドライン調査</p> <p>2019年4月下旬から6月中旬にかけてベースライン調査を実施した。まず、地区行政スタッフや地域住民からの聞き取りと視察を通じ、保健医療施設や学</p>

校等の社会インフラ、集落、森林や川等の位置を記した地図を作成し、対象地域の状況把握に努めた。そして、本事業スタッフ及び調査専任アシスタントが、対象地域内の全集落を訪問し、母子が居住する世帯において戸別調査を行った。加えて、ヘルスポストの現状調査、女性地域保健ボランティア（以下、FCHV : Female Community Health Volunteer）やヘルスポスト運営管理委員会³メンバーに対する聞き取り調査を行った。詳細は以下の通り。

調査対象	調査内容
①ヘルスポスト (全4か所)	・提供している保健医療サービスの内容、スタッフの研修受講歴、FCHVとの連携状況、管轄区における母子保健の状況等に関するインタビュー ・ヘルスポストで現在使用している資機材の現状及びニーズに関するインタビューと視察
②ヘルスポスト運営管理委員会(全4か所)	・同委員会の活動状況に関するインタビュー
③ヘルスポスト利用者 ⁴ (全4か所、116人)	・公的保健医療サービスの満足度調査
④FCHV(16人)	・活動状況や、担当集落における母子保健の現状に関するインタビュー
⑤5歳未満児を持つ母親 (全8区、237人)	・出産及び産前・産後ケアについてのフォーカスグループディスカッション ⁵
⑥母子が居住する家庭 (全8区、816世帯)	・出産及び産前・産後ケアに関する戸別インタビュー

1. 公的一次保健医療サービスの強化

1-1. HP への資機材供与

ベースライン調査で不備・不足が確認された以下31種114品目の資機材を、ガダワ地区行政を通じて各ヘルスポストに供与した。供与時に、本事業スタッフが資機材の使用方法を必要に応じて指導した他、供与後はヘルスポスト運営管理委員会とともに使用・管理状況をモニタリングした。

資機材	供与先					計
	ガダ	ガン	ゴバ	コイ		
1. 保育器	1	1	1	2	5	
2. 分娩台	1	2	0	1	4	
3. 診察ベッド	1	2	1	0	4	
4. 酸素濃縮器	1	0	0	0	1	
5. 吸引機	1	1	0	1	3	
6. ワクチン保管用冷蔵庫	1	1	0	1	3	
7. 診察カーテン	1	1	0	0	2	
8. 分娩介助セット	3	2	0	2	7	
9. ストレチャー	0	2	0	0	2	
10. 介助用車いす	1	1	1	0	3	
11. 点滴台	0	2	0	0	2	
12. 血圧計	3	2	3	2	10	

¹ 申請時の「女性子ども社会福祉省 (Ministry of Women, Children and Social Welfare)」は、「女性子ども高齢者省 (Ministry of Women, Children and Senior Citizens)」に改変された。

² ネ国政府女性子ども高齢者省のNGO管轄機関である「社会福祉協議会」により、実施が義務付けられている監査。事業対象者の立場から、事業のパフォーマンスや社会的インパクトを測るもの。第三者による対象者への聞き取り調査や公聴会の開催を通じ、質的に事業を評価する。

³ ヘルスポストの運営管理を担う住民により構成された委員会。ネパール保健人口省の規定により、全ヘルスポストに設立すること義務付けられている。ヘルスポストの運営方針の協議や課題解決、年次計画策定とその実行状況モニタリング等の業務にあたる。

⁴ ③⑤⑥の調査対象者・世帯は、無作為に標本を抽出した。

⁵ ある特定のテーマについて、8~10人程度のグループで議論してもらい、情報を得るフィールドワーク手法の一つ。

13. 避妊皮下インプラントセット ⁶	0	0	0	2	2
14. 切開排膿セット	3	1	2	0	6
15. 吸入器	0	1	1	1	3
16. 体重計	0	0	1	0	1
17. 小児用体重計	2	1	2	0	5
18. 縫合セット	3	2	1	2	8
19. 聴診器	3	2	3	2	10
20. 水ポンプ	1	0	0	1	2
21. 水フィルター	0	1	0	2	3
22. UPS（無停電電源装置）	1	1	1	0	3
23. 薬品棚	1	1	1	1	4
24. 手術器具台	0	1	1	0	2
25. 耳鼻咽喉検査器具	1	1	1	1	4
26. 消毒貯槽	2	1	2	2	7
27. 顕微鏡	0	0	1	0	1
28. 恒温水槽	0	1	0	0	1
29. 乾熱滅菌器	0	1	0	0	1
30. ドップラー	0	1	1	1	3
31. 診察用照明灯	2	0	0	0	2
合計	33	33	24	24	114

（略称） ガダ=ガダワ・ヘルスポスト、ガン=ガンガパラスプル・ヘルスポスト、ゴバ=ゴバルディア・ヘルスポスト、コイ=コイラバス・ヘルスポスト

1-2. ヘルスポストスタッフの能力強化研修の開催

ベースライン調査で高いニーズが確認された「家族計画とカウンセリング」に係る研修が2020年1月、第5州保健研修センターで開催され、各ヘルスポストから1人ずつ、計4人が受講した。10日間の研修パッケージには、同研修センターの講師による講義（家族計画サービス内容、行動変容、コミュニケーションなど）やカウンセリングのロールプレイに加え、ネパール家族計画協会ブトワル支部で提供されている家族計画とカウンセリングサービスの視察（実際のカウンセリングの様子、ツールの利用方法など）も含まれ、知識・技術の両面から能力強化を図ることができた。

1-3. ORC/CHU の建設

2019年6月から7月にかけて、本事業スタッフ（建設エンジニア）が中心となり、2～3年次に建設予定のアウトリーチクリニック（以下、ORC：Outreach Clinic）及びコミュニティヘルスユニット（以下、CHU：Community Health Unit）に係る基礎調査を実施した。具体的には、地区行政と地域住民の意向で決定された ORC/CHU の建設予定地（計8か所）の立地条件（居住地・道路・川からの距離）や地質を調査した他、土地登記に係る法的手続きを行った。

2年次建設予定の ORC/CHU（計4か所）については、地区行政エンジニア協力のもと、測量・設計をし、各 ORC/CHU の図面及び見積書を作成した。

また、区長や FCHV から地元住民7人からなる建設管理委員会が各 ORC/CHU で設立され、今後、本事業スタッフとともに施工状況のモニタリングを担うこととなった。なお、ORC/CHU の建設を請け負う業者が、2012年1月から2月に公示された一般競争入札を通じて選定された。

1-4. ORC/CHU への資機材供与

2年次以降に実施する。

⁶ 黄体ホルモンが入ったマッチ棒サイズのスティックを女性の上腕の皮下に入れるための道具。挿入後、スティックから徐々に黄体ホルモンが放出し血流に入ることで排卵を抑制する。避妊効果は3～5年間有効。望まない妊娠や予定外の妊娠を防ぐための家族計画手段の一つとして、ネパール政府が奨励している。

1-5. ORC/CHU の運営支援

2019年6月以降、ヘルスポストが実施しているORCサービス（ORCで月2回実施されている予防接種や妊婦健診）に本事業スタッフも参加し、特に子どもの成長モニタリングや予防接種に係る記録の管理、処方薬の配布、在庫管理、さらに患者対応等を支援した他、ヘルスポストスタッフに対してORCの運営改善に向けた助言を行った。

1-6. FCHV 能力強化研修の開催

2019年8月、ヘルスポストごとに2日間の「FCHV 能力強化研修」が開催され、すべてのFCHV（83人）のうち78人が参加した。研修では、今年次の目標として特に「妊産婦体調管理」に重点を置き、加えて「栄養」「衛生」「家族計画」などに関連した保健知識も学べるよう工夫した。また、FCHVが自身の集落で効果的に啓発活動を実施できるよう、FCHVの役割を再認識してもらうための講義や、コミュニケーション手法に関するワークショップなども取り入れた。なお、研修講師は、本事業スタッフとガダワ地区行政の保健担当官が務めた。当日やむなく欠席した5人のFCHVには後日、本事業スタッフにより個別指導が行われた。

2. 地域住民の母子保健知識向上

2-1. 母子保健啓発活動

対象地区で活動している85の母親グループ⁷・メンバー（計2,228人：女性2,212人、男性16人）の母子保健知識向上を目的に、各グループの月例ミーティングで保健ワークショップが267回行われた。同ワークショップでは、「妊産婦健診」「出産準備」「予防接種」「家族計画」「栄養」「衛生」など、幅広いテーマが取り上げられ、当該集落を担当するFCHVと本事業スタッフによって説明がなされた。回数を重ねるにつれ、FCHVと母親グループ・メンバーとの対話が増え、ワークショップの進行が円滑になるなど、FCHV能力強化研修（活動1-6）の効果が確認できた。

また、国際・国家記念日（母乳育児週間、家族計画の日、FCHVの日）にあわせ、地区行政やFCHVと共同で開催したイベント（集落でのラリーや公立小中学校でのワークショップ）に、延べ538人の住民が参加し、各テーマに関する知識・意識向上を図ることができた。さらに、ORCサービスの機会にも52回の保健啓発レクチャーが開催され、延べ1,069人が参加した。

2-2. 啓発ツールの作成と配布

母子保健啓発活動を広めて、公的保健医療サービスの利用を促進することを目的とした啓発パンフレット2種と掲示板1種を作成し、ヘルスポストや地区事務所、集落において配布・掲示した。各ツールの数と内容は以下の通り。

ツール	数	配布先	主な内容
パンフレット①	1,000枚	ヘルスポスト患者 ガダワ地区役所来訪者	妊婦健診の内容と受診回数・時期、妊娠中の危険な兆候、出産準備、安全な出産
パンフレット②	2,000枚	啓発イベント参加者 ガダワ地区役所来訪者	保健啓発活動の紹介
掲示板	12台	ヘルスポスト等の公共施設の入口や幹線道路沿い他、ガダワ地区内に設置	妊婦健診の内容と受診回数・時期、妊娠中の危険な兆候とヘルスポスト・

⁷ 集落ごとに形成されたグループ。FCHV制度の全国化に伴い、母親グループによる保健活動が促進されるようになった。母子保健に関する活動（疾病予防の啓発活動、ビタミン剤配付、寄生虫駆除、予防接種の推進等）を、当該集落を担当するFCHVとともに推進している。

	<div style="text-align: right;">サービス利用の重要性</div> <p>なお当初、作成・配付する啓発ツールはパンフレットのみを予定していたが、新たに掲示板も設置したことで、老若男女を問わず多くの住民に啓発メッセージを届けることが可能になった。</p>
(3) 達成された成果	<p>【「期待される成果」に対する達成度】 今年次の目標の達成度は以下の通りである。</p> <p>成果1「公的一次保健医療サービスが強化される」 指標①：能力強化研修を受講したヘルスポストスタッフの9割が、研修終了時テストに合格する。 ⇒ 達成。研修を受講した4人のヘルスポストスタッフ全員が研修終了時テストに合格した。</p> <p>指標②：能力強化研修を受講したFCHVの9割が、研修終了時テストに合格する。 ⇒ 達成。研修を受講したFCHVの95%が研修終了時テストに合格した。</p> <p>成果2「地域住民の母子保健知識が向上する」 指標①：母子保健啓発活動に参加した住民の理解度が4割上がる。 ⇒ ほぼ達成。1年次の終了時調査によると、「妊婦健診の受診時期」に関する理解度は13ポイント(71.0%→84.4%)の改善にとどまるなど、もともと理解度が高いテーマもあったが、「乳幼児の栄養剤の摂取時期とその必要性」に関する理解度が59ポイント上昇(18.7%→77.8%)するなど、地域住民の母子保健知識の向上を確認できた。</p> <p>指標②：保健啓発ツールを9割以上の世帯が受け取る。 ⇒ ほぼ達成。パンフレットの受領世帯数は対象地区の約4割の世帯(3,000/7,267世帯)に留まったが、地区内12か所に設置した掲示板による推計裨益世帯数も含めることにより、9割程度の世帯に裨益したと言える。</p> <p>なお、プロジェクト目標「ダン郡ガダワ地区において母子の基礎保健医療サービスへのアクセスが改善する」に対応する指標については、ネパール政府の「保健管理情報システム」より以下の通り、今年次における達成度を確認した。3年次終了まで、既に目標値を上回った区については現状の維持ならびに更なる向上を、また、指標が悪い区については活動の介入を更に強化し、事業対象地における健康格差を是正していきたい。</p> <p>① 全区の第1回妊婦健診受診率が90%（申請時ダン郡平均値）を超える。 ⇒達成区：ガダワ区 92% ⇒未達成区：ガンガパラスプル区 84%、ゴバルディヤ区 61%、コイラバス区 84%</p> <p>② 全区の第4回妊婦健診受診率が52%（申請時地区平均値）を超える ⇒達成区：ガダワ区 90%、ガンガパラスプル区 61%、コイラバス区 68% ⇒未達成区：ゴバルディヤ区 51%</p> <p>③ 全区の妊婦鉄剤受給率が53%（申請時地区平均値）を超える。 ⇒達成区：ガダワ区 93%、ガンガパラスプル区 87%、コイラバス区 77% ⇒未達成区：ゴバルディヤ区 48%</p> <p>④ 全区の予防接種（BCG）受診率が88%（申請時地区平均値）を超える ⇒達成区：ガダワ区 100%、ガンガパラスプル区 95% ⇒未達成区：ゴバルディヤ区 81%、コイラバス区 59%</p>

	<p>⑤ 全区の予防接種（DPT、Hep. B、Hib 3）接種率が79%（申請時地区平均値）を超える ⇒達成区：ガダワ区 100% ⇒未達成区：ガンガパラスプル区 74%、ゴバルディヤ区 71%、コイラバス区 48%</p> <p>⑥ 全区の予防接種（Measles/Rubella）接種率が78%（申請時地区平均値）を超える。 ⇒達成区：ガダワ区 90%、ガンガパラスプル区 80% ⇒未達成区：ゴバルディヤ区 76%、コイラバス区 75%</p> <p>【SDGs に該当する目標における成果の視点】 本事業は、SDGs の 17 の目標のうち、主に以下の目標達成に貢献している。</p> <p>目標 3「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」 ネパール政府は 2030 年までに妊産婦死亡率を 70（出生 10 万対）に減らし、予防可能な子どもの死を根絶することを目標に掲げている。本事業は公的保健医療サービスの質、及び住民の知識・意識を向上し、同サービスへのアクセスを促進することにより、本目標の達成に貢献していると言える。</p> <p>目標 10「各国内及び各国間の不平等を是正する」 ネパール国内の地域間、民族・カースト間、ジェンダー間、貧富間におけるサービス受給の差は顕著であり、保健人口省は「National Strategy for Reaching the Unreached to Reduce Health and Nutrition Inequalities and to Achieve Universal Health Coverage in Nepal (2016-2030)」を打ち出し、遠隔地と社会経済的な脆弱性の高い人々に対する保健医療サービス強化を図っている。インドと国境を接し、タルー族他、複数の少数民族が居住する遠隔地で、本事業は母子の保健医療サービスへのアクセス改善に取り組んでおり、本目標の達成に貢献していると言える。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスポストに供与した資機材については、ヘルスポスト運営管理委員会が使用・管理状況をモニタリングする体制が構築されている。 ・ヘルスポストのスタッフはこれまで、本事業対象郡外の人材も配置されていたが、2019 年 8 月の保健人材の再編成政策により、全スタッフが対象郡内の人材に変更された。本事業で実施した「家族計画とカウンセリング」研修の受講者も本事業対象郡内在住のスタッフであり、今後もガダワ地区住民に対し、研修で得た知識・技術が長きにわたり還元されることが期待できる。 ・既存の母親グループの定例ミーティングに保健啓発活動を取り入れ、保健知識の習得・普及面における持続発展性を高めるための土壌を構築できた。2 年次以降、さらに FCHV の能力強化や母親グループ・メンバーとの連携強化を図ることで、持続発展性を高めたい。 ・本事業におけるすべての活動は、ガダワ地区行政やヘルスポストと密に連携して実施しており、地区行政政策との整合性ならびに主体性を高めることで、事業成果の持続発展性を担保している。